

～フェアなスポーツと、スポーツの価値を守るために～

＜スポーツは、人類にとってかけがえのない文化＞

スポーツは、人類にとって大きな価値を持つ文化です。

我が国が定める「スポーツ基本法」は、スポーツについて次のように述べています。

- ・スポーツは世界共通の普遍的な文化である。
- ・すべての人々がスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利を有する。

スポーツは、単に身体を動かすことではなく、健康な心と体を育み、挑戦する気持ちや相手を尊敬する心を育ててくれるなど、今日、私たちの社会の中で、欠かすことのできない役割を持っています。スポーツを通して、幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人の権利であり、すべての人が安全で公正な環境においてスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参加できる機会は守られなくてはなりません。この権利は、競技者が不正や不公平から守られ、公正・公平な条件のもとで競技に参加する権利を含むものであり、アンチ・ドーピング活動は、その権利と競技者の尊厳を守るための重要な枠組みです。

また、スポーツは、国や地域、時代の違いを超えた「人類共通の文化」として培われてきたもので、私たち一人ひとりにはスポーツという文化を守り、後世に受け継いでいく担い手でもあります。

スポーツを重要な文化と捉え、すべての人がスポーツに参加する「権利」を持つという考え方は、ユネスコの「スポーツにおけるドーピングの防止に関する国際憲章」にも規定された、「世界共通の認識」です。それほど、スポーツとは、人類にとって大切な価値を持った文化なのです。

＜スポーツを成り立たせるための必須条件とは？＞

では、すべての人が、スポーツの価値を享受し、幸福で豊かな生活を営むための条件とは何でしょう？それは、スポーツが、すべての参加者にとって「フェア」な舞台でありつづけるということです。加えて、各競技者の本来の資質を磨き上げることを通じ、競技における卓越性を倫理的に追及するというのがスポーツの本質であり必須なものです。たった一人でも、ドーピングによって、不正又は不公平な条件で参加するならば、その時点で、スポーツはスポーツとして成り立ちません。たった一人のドーピングは、競技者はもちろん、支える人や応援する人などのスポーツに関わるすべての人の権利を奪うことになる。だからこそ、スポーツは、常にドーピングから守られ、すべての人にとって「フェア」でなくてはならないのです。また、クリーンでフェアなスポーツ環境は、競技者の健康、安全及び尊厳を守るために不可欠なものであり、すべての競技者が安心して競技に参加できる環境を確保することは、基本的な権利として尊重されなければなりません。

＜スポーツの多様な価値を守るために＞

アンチ・ドーピング活動は、スポーツがフェアであることを保証し、スポーツの「価値」を守るために存在しています。オリンピックやパラリンピックの精神を含め、世界中の人々が、スポーツの持つ多様な価値を

認め合っています。スポーツに内在する価値、そしてスポーツを通して実現・創造する価値には、以下のようなのが含まれます。さらに、これらの価値を守る取り組みは、ドーピングの防止にとどまらず、クリーンなスポーツ環境の保護とスポーツのインテグリティ（誠実性及び公平性）を確保することにつながるものです。

- ・ 共同体
- ・ 平等
- ・ 楽しみと喜び
- ・ 尊重
- ・ 助け合い・支え合い

また、競技者がスポーツの精神を通して体現する価値としては、以下のようなものがあり、

- ・ 達成
- ・ 献身
- ・ 勇気
- ・ 規律
- ・ パフォーマンスの卓越性
- ・ フェア・プレー
- ・ 誠実さ
- ・ 個人的な責任
- ・ 友情

更に、アンチ・ドーピング活動に組み込まれている価値には、以下のようなものがあります。

- ・ 競技者の権利及び責任
- ・ 他人との協力
- ・ 教育及び知識
- ・ 公平
- ・ 健康
- ・ 人権の尊重
- ・ ルール、法及び正義の尊重

スポーツには、世界中の人が認める、これほど大切な価値があります。そしてドーピングを行うことは、単にその人が、ルール違反をしたというだけにとどまりません。ドーピングは、あなた自身にとっての「スポーツの価値」を否定し、さらには、すべての人の「フェアなスポーツに参加する権利」を奪います。だからこそ、私たち一人ひとりが、「なぜスポーツにおけるドーピング違反をすることがすべての人にとって重大なことなのか」を認識し、ドーピング違反をしないことはもちろん、まわりや世の中の意識とともに高め合い、スポーツのフェアと価値を守るための活動を行なっていかなければなりません。

～なぜ、「日本アンチ・ドーピング規程」が存在するのか～

<日本アンチ・ドーピング規程は、フェアなスポーツを守るための、私たちの約束事>

スポーツは「世界共通の普遍的な文化」です。だからこそ、スポーツが「フェア」であることを保証するためのルールも世界共通でなければなりません。そうして生まれたルールが「世界アンチ・ドーピング規程」と「国際基準」です。これらのルールは、世界中の様々な競技に携わる人々や、競技者や競技団体、アンチ・ドーピング機関など、いろいろな立場の人々が意見を出し合い、協議してつくられたすべての人の約束事であり、世界アンチ・ドーピング機構（World Anti-Doping Agency以下「WADA」という。）によって管理されています。そして、この世界共通のルールを、日本国内に適応させるために「日本アンチ・ドーピング規程」が存在しています。日本アンチ・ドーピング規程は、世界アンチ・ドーピング規程に記されている各条項に基づいて作成されており、国内においてフェアなスポーツを守るためのルールであると同時に、世界各国・地域や世界のスポーツと協調してアンチ・ドーピング活動を推進するためのルールでもあります。日本は、これらの国際的枠組みの一員として、国内におけるアンチ・ドーピング活動を適切に推進するとともに、国際社会と連携しながら、クリーンスポーツの発展に主体的に貢献していくことが求められています。

<すべての人が取り組む、アンチ・ドーピング活動>

日本アンチ・ドーピング機構（Japan Anti-Doping Agency以下「JADA」という。）は、WADAや国内の関係機関と連携を図りながら、「日本アンチ・ドーピング規程」の管理を行い、その取り決めに基づいて、国内のドーピング検査や教育を実施しています。しかし、アンチ・ドーピング活動とは「JADAだけの活動」ではありません。スポーツという文化を守り、スポーツのフェアを保証する活動は、スポーツに関わる「すべての団体」とスポーツに参加する「すべての人」によって推進されなければならない活動であり、その拠り所が、すべての人の約束事である「日本アンチ・ドーピング規程」になります。

アンチ・ドーピング活動は、違反を抑止するための仕組みにとどまらず、教育を通じてスポーツの価値やルールへの理解を深め、自律的な判断を促すことで、アンチ・ドーピング規則違反の未然防止を図る取り組みでもあります。こうした教育と予防を重視する姿勢は、クリーンでフェアなスポーツ環境を持続的に育んでいくために不可欠です。

<スポーツの価値を守り、広め、よりよい社会を創造する>

日本には、スポーツにおける、勝敗を超えた価値や倫理を重んじる長い歴史があります。日本のスポーツの礎をつくった嘉納治五郎は、「順道制勝」という言葉を提唱しました。この言葉は、「勝つにしても道に順って勝ち、負けるにしても道に順って負けなければならぬ。負けても道に順って負ければ、道に背いて勝つより価値がある」ということを意味しています。

嘉納治五郎が提唱し、日本のスポーツ界に受け継がれてきた精神は、世界の人々が推進しているアンチ・ドーピング活動の精神と、まさに一致するものです。アンチ・ドーピング活動によって、スポーツの価値を守ることが、競技者をはじめとするスポーツに関わる私たち一人ひとりが、クリーンでフェアなスポーツを自

らの行動によって実践し、その価値を未来に向けて育み、「スポーツの価値を社会全体に活かしていく」取り組みでもあります。

スポーツを健全に発展させ、その価値をみんなで認識し、広めていくことで、より豊かで、より健康的な社会を創造していく。アンチ・ドーピング活動の目的はまさにそこにあります。それは、私たち一人ひとり、すべての人が守り続け、改善し続ける取り組みなのです。